

# 雲、台風のメカニズム解説

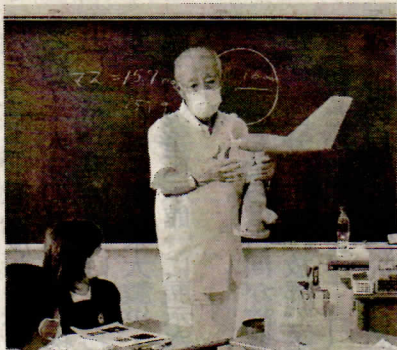
元気象庁・古川さん

鹿嶋市武井の市立大同西小（樋口洋美校長）で6日、理科特別講座（同市教育センター主催）が行われ、元気象庁予報課長の古川武彦さん（82）が気象のさまざまな出来事について講義した。

古川さんは、プロペラ型風向風速計や転倒ます型雨量計などの道具を紹介。さらに、雲について「空気が持ち上がって温度が下がると、水蒸気でいられなくなった水分が雲になる」と説明し、実際にペットボトルを使って雲ができるメカニズムを実演した。

## 鹿嶋・大同西小で講義

また、台風については「地球の自転による力が加わるため、北半球で発生した台風の渦は反時計回りになる。南半球では反対に時計回りの渦となる」と、道具を使いながら説明。さらに



「台風の中心には（遠心力で）雲がはじかれる部分があり、壁のようになる。これが台風の目」  
「赤道付近では雲はできても渦を巻く力がないので、台風は発生しない」などと語った。

講義を聴いた小松崎蘭さん（11）は「台風の目ができる仕組みが面白かった。天気予報を注意して見てみようと思った」と話した。

古川さんは「身の回りで起きていることに少し目を向けてもらい、いろいろな分野で貢献できるようになってほしい」と願った。

プロペラ型風向風速計を紹介する古川武彦さん＝鹿嶋市武井

2022-7-6